

(様式1)

国保依田窪病院 倫理審査申請書

2023 年 9 月 26 日提出

国保依田窪病院長 様

倫理委員会委員長 様

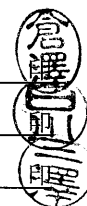
申 請 者

部 署 診療部

氏 名 内科医師 倉澤 幸史

部署長 内科科長 白川 晴章

部門長 三澤 弘道



※ 受付番号 No.

1. 課題名	「私の診療に関する希望書（事前指示書）」運用について
2. カテゴリー	☐ 疫学的な調査のための臨床研究 ☐ 診断及び治療法の効果を調べる臨床試験 ☐ 学会等提出論文 ☐ 委託研究または製造販売後調査 ☒ その他（ 臨床倫理の指針 ）
3. 実施 責任者名	内科医師 倉澤 幸史
4. 実施 分担者名	須山和弘、白川晴章、佐藤泰吾、後藤拓也、田畑洋輝、池田大岳
5. 医療の概要	実施期間 2023年 9月 26日 ～ 2023年 9月 末日 まで 概 要 「私の診療に関する希望書（事前指示書）」運用
6. 医療の対象並び に実施場所	対象例数 実施期間中に説明を行うすべての患者 医療対象 実施場所 国保依田窪病院
7. 実施計画書	
8. 医療における 倫理的、社会的配 慮について	(1) 医療の対象となる者の人権擁護 医師がIC時に説明を行う (2) 医療の対象となる者の理解と同意 別添「私の診療に関する希望書（事前指示書）」の作成と同意、提出を もって理解、同意とみなす (3) 医療の対象となる者に生ずる危険性と不利益に対する配慮 医師がIC時に説明を行う (4) その他
9. 審査資料	☐ 実施計画書 ☒ その他（私の診療に関する希望書（事前指示書）） ☐ 同意説明文書及び同意書

- 注意事項 1 1～5は必ず記入し、ファイルをメールまたはメディアに保存し提出すること。
- 2 審査対象となる別添資料があれば、全て添付すること。（別添資料添付漏れのある場合審査できません。）
- 3 ※印は記入しないこと

私の診療に関する希望書（事前指示書）

依田窪病院診療部 20230810 版

私および私の家族は、私の具合が悪くなり、死期が近く、このまま何も治療をしなければ救命できず、また治療しても私が希望する健康状態までの回復は期待できず、かつ私が自分で意思表示ができなくなったと判断されたときには、以下のように考えていただくようにお願いします。ただしここに書かれたことは現在私が考えていることであり、私の意思で今後変更することもあります。

また予期しない突発的な事故の場合（例えば交通事故、転んで意識がなくなった、のどにものが詰まったときなど）には以下に書かれたことではなく通常の医療をお願いします。

○ ひどく具合が悪くなったときに

- 1) 私は病院よりも家で最期を迎えたいと思います。
- 2) 私が家族が指定した病院（ 病院）で治療してください。
- 3) 救急病院で治療してください。
- 4) 判断は家族（ ）に任せます。
- 5) 判断は担当医師（ 医師）に任せます。
- 6) その他

○ 治療に際して医療者には以下の項目を尊重していただきたく思います。

● 心肺蘇生（心臓マッサージなど）

- 1) 心臓や呼吸が停止したときに救急蘇生処置をしないで下さい。
- 2) 救急蘇生処置はしても人工呼吸器にはつながないで下さい。
- 3) 積極的に蘇生処置をしてください。
- 4) 判断は家族（ ）に任せます。
- 5) 判断は担当医師に任せます。
- 6) その他

*蘇生処置：心臓を手で押して動かす心臓マッサージや、口や鼻などから肺に管をいれて人工呼吸をすることをいいます。

*人工呼吸器を接続することで、自分の呼吸が停止しても自動的に呼吸を続けることができます。ただしいったん接続すると患者さんの呼吸状態が回復しない限り、機械を外すことは原則としてしません。

● 栄養：食事が口から入らなくなったり、のどがむせて食事をとれなくなったりしたときには

- 1) 自分で食べられなくなっても鼻から胃管を入れたり、お腹に胃瘻を作ったりしないで下さい。
そのために生きていけなくなってもかまいません。
- 2) 栄養をとるために必要なら鼻から胃管を入れて下さい。胃瘻は作らないで下さい。
- 3) 必要ならば胃管、胃瘻を作ってください。
- 4) 判断は家族（ ）に任せます。
- 5) 判断は担当医師に任せます。
- 6) その他

*胃管：鼻から細いチューブを胃まで入れ、ここから栄養を入れる方法です。

*胃瘻：胃カメラなどを使ってお腹に穴をあけ、細いチューブを通して直接栄養を外から胃に入れる方法です。

● 中心静脈からの高カロリー輸液

- 1) 中心静脈栄養、高カロリー輸液はしないでください。
- 2) 必要なら中心静脈栄養、高カロリー輸液をしてください。
- 3) 判断は家族（ ）に任せます。
- 4) 判断は担当医師に任せます。
- 5) その他

*中心静脈栄養、高カロリー輸液とは首や股の部分の太い血管から濃度の高い点滴を常時することで、食事をとらなくても点滴だけで長期間生きていける方法です。

● 点滴（通常の点滴）

- 1) 点滴ができる血管がなくなったときは、点滴を中止してください。
- 2) 点滴ができる血管がなくなったときは、皮下点滴をしてください。
- 3) 判断は家族（ ）に任せます。
- 4) 判断は担当医師に任せます。
- 5) その他

*通常の点滴を長く続けていると、体のやせが進み、手足の血管が細くなっていきます。その結果、血管に点滴するための針を刺しづらくなることがあります。

*皮下点滴：血管の中ではなく皮下組織に針を入れて点滴する方法です。血管への点滴に比べると速度がゆっくりで時間がかかります。点滴した場所に鈍痛を感じるがあります。

● 昇圧薬（血圧を上げるための薬）

- 1) 昇圧薬は使用しないでください。
- 2) 必要なら昇圧薬を使用してください。
- 3) 判断は家族（ ）に任せます。
- 4) 判断は担当医師に任せます。
- 5) その他

● 輸血

- 1) 輸血はしないでください。
- 2) 必要なら輸血をしてください。
- 3) 判断は家族（ ）に任せます。
- 4) 判断は担当医師に任せます。
- 5) その他

● その他の希望

令和 年 月 日

本人署名 _____

家族署名 _____ (続柄)

受け取り医署名 _____